



# 相原中学校だより

臨時号  
H30.2.9

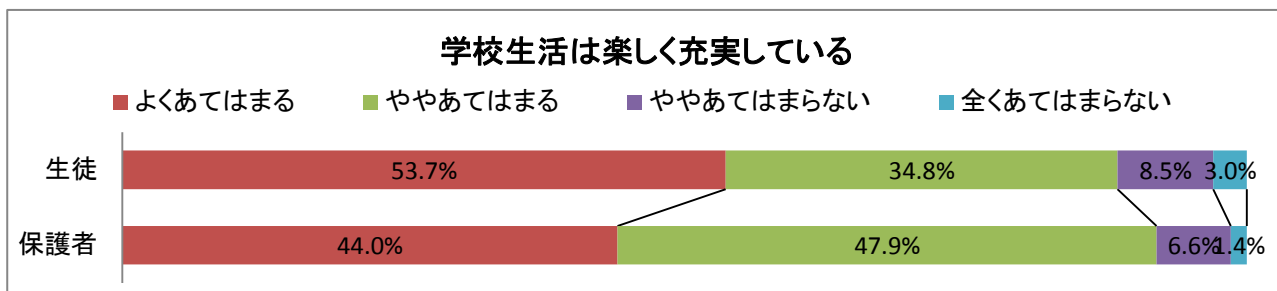
## 今年度の成果と課題

校長 江戸谷 智章

今年度の学校評価（自己評価）がまとまりましたので、その概要をご報告します。この報告は学校生活に関するアンケート、各懇談会でのご意見、行事の反省、日常の生活の様子等を総合し、本校職員でまとめたものです。紙面が限られているため、アンケート集計結果及び全国学力・学習状況調査の分析結果については、学校ホームページに掲載いたしますので、あわせてご覧いただきますようお願いいたします。

### 《今年度の成果として感じたこと》

どの学年の生徒たちも落ち着いた学校生活を送っています。礼儀正しいあいさつ、清楚な服装、前向きな学習態度、生徒会活動や部活動への意欲的な取り組みなどが学校風土として根付いています。今後も本校の良き伝統として継承していきたいと思えます。



○学校生活に関するアンケートでは、多くの生徒が規律正しく充実した学校生活を送っており、人間関係も良好である様子がうかがえます。

- ・「学校や社会のルールを守っている」：96.3%（生徒）、95.9%（保護者）
- ・「学習や委員会活動、部活動等に目標を持って取り組んでいる」：90.7%（生徒）、86.6%（保護者）
- ・「学級や部活動等での人間関係はうまくいっている」：89.2%（生徒）、90.1%（保護者）
- ・「部活動は楽しく充実している」：82.3%（生徒）、85.3%（保護者）
- ・「学校生活の中で、自分を生かせる場所や機会がある」：80.5%（生徒）、84.8%（保護者）※注1

○どの教科においても、学習内容に応じてグループ学習等が行われ、生徒同士の学び合いにより、主体的、協同的な学習が進められています。また、3年生が4月に取り組んだ全国学力・学習状況調査では、国語・数学ともに全国や県の平均正答率を上回り、全体として安定した力を発揮しています。

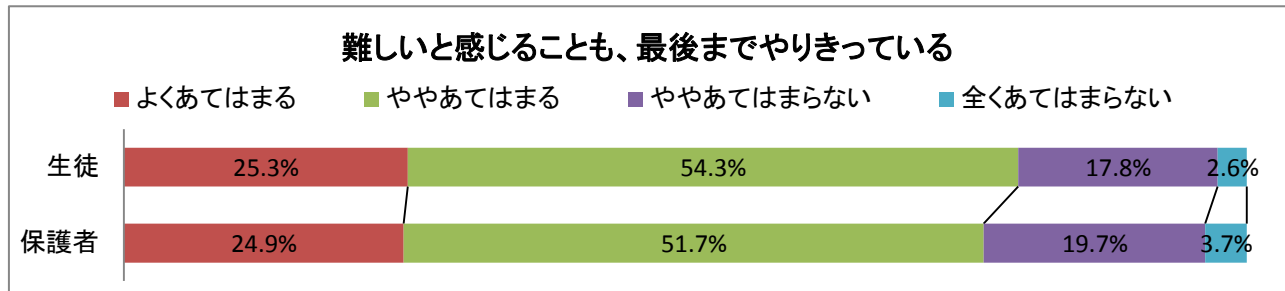
○優輝祭での縦割りブロック制など、異学年交流の活動を取り入れることにより、上級生としてあこがれ等の対象としての自覚と責任、下級生に伝統を引き継ごうとする気持ちが高まり、自分たちの生活や学校行事に主体的に取り組もうとするよい校風ができています。

○全校道徳や人権作文の取り組みをはじめ、さまざまなボランティア活動を通して、相手を思いやり人の役に立ちたいと考えている生徒が増えています。また、いじめ防止については、生徒アンケートを定期的実施するとともに、職員間での情報の共有を適宜行うことで、早期発見、早期対応に取り組むことができたと考えています。

※注1 各アンケートの結果数値は、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計値

## 《課題および次年度に向けて》

これからの時代、生徒一人ひとりが様々な変化や諸課題に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して自らの可能性を發揮できるようにするためには、地域・保護者の皆さまの連携・協力のもと、知徳体のバランスのとれた教育活動を、一層推進していく必要があると考えます。

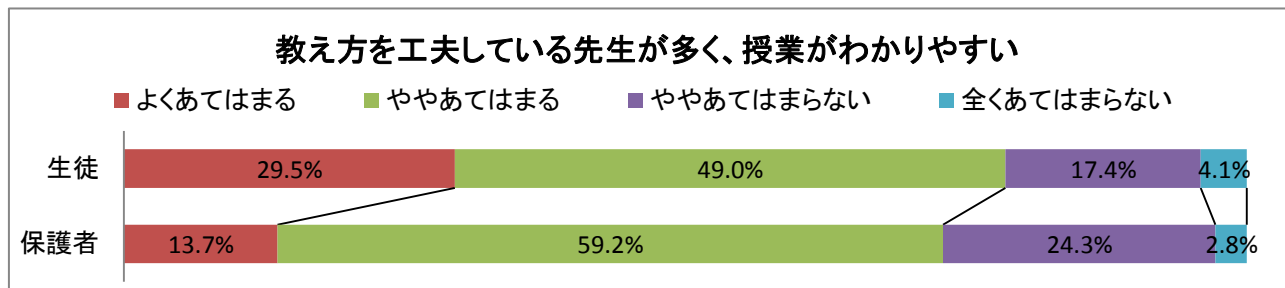


○身の回りで生じている様々な課題の解決に向けて、生徒自身が周囲の協力を得ながら解決策を考え実践し、困難にも屈せず物事を成し遂げていく資質・能力を、授業はもとより教育活動全般の中で培っていきたいと考えます。

○保護者・地域と連携し、生徒の健全な育成を推進していくために、これまで同様に、学校の様子を学校ホームページや学校だより等で周知を図ると共に、学校の目指す姿である「学校教育目標」をはじめとする「私たちの努力目標」等についても様々な機会を通して保護者・地域に周知していきたいと考えます。

・「私たちの努力目標」を知っている：65.3%（生徒）

・「学校は学校 HP や学校だよりなどで生徒の様子などをよく知らせている：92.8（保護者） ※注1



○学習面では、相対的には学習状況はよいものの、中には授業内容についていけなくなっている生徒もいます。学校は今後も個々の生徒の教育的ニーズを把握し、個別の学習相談の機会などを増やし、長期休業中の補習のあり方についても工夫していきたいと考えています。

○それぞれの授業の中で、話し合い活動や発表の機会等を適切に位置づけることで、知識や技能の定着、さらには生徒自身が達成感をもてるよう授業改善に取り組んでいきたいと考えます。

○学校生活に関するアンケートでは、相談できる先生が7割程度にとどまっています。これまで以上に相談しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、校内研修等を通して生徒理解に努めてまいりたいと考えます。

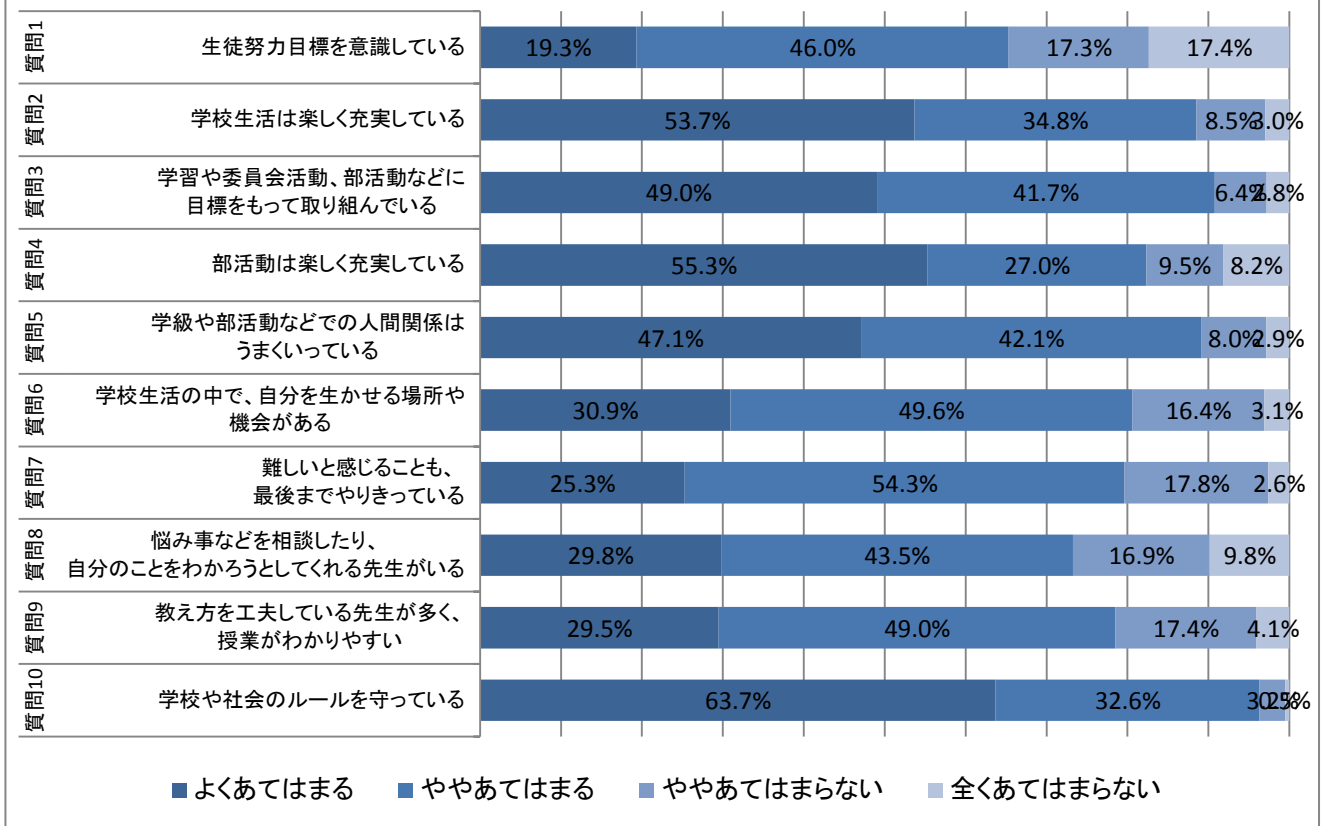
○その他、「カバンの変更」については、職員で方向性について検討をしております。また、「定期テストの回数増」「部活動の外部指導講師化」については、教育課程に係わる行事や内容の精選、重点化という観点から現状では難しい課題ととらえています。

**次年度も生命や人権の尊重、学校の安全安心を基盤とした教育活動を継続し、より充実させていくことが大事だと考えています。引き続き保護者のみなさま、地域のみなさまのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。**

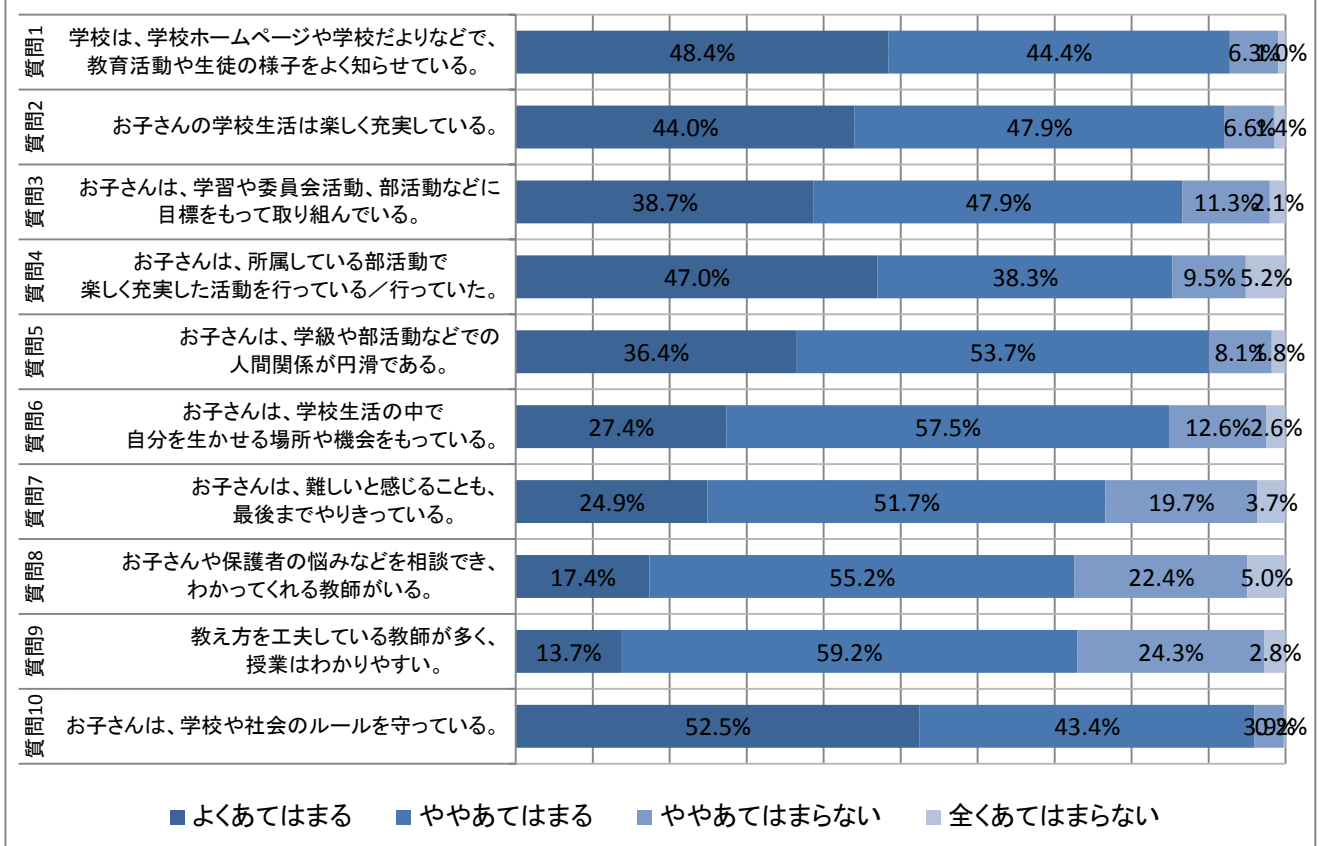
平成29年度 学校生活に関するアンケート集計結果

(平成29年11月実施 回収集計数 生徒557名、保護者493名)

### 生徒用アンケート結果



### 保護者用アンケート結果



# 相原中学校の状況

## ～平成29年度全国学力・学習状況調査の結果から～

平成29年4月18日に3年生を対象に行なわれた全国学力・学習状況調査の結果について校内で分析を行い、本校のよい点や課題、今後の取り組みについて整理いたしましたのでその概要をお知らせします。

なお、この調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。この調査結果に一喜一憂するのではなく、今後の教育活動に生かし、引き続き生徒一人ひとりの学力向上を目指し取り組んでまいります。保護者の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

### 1 教科に関する調査からわかる本校生徒の特徴

#### 概要

- 国語A（基礎的・基本的な知識・技能の習得）・国語B（基礎的・基本的な知識・技能の活用）をみる問題については、平均正答率が全国や神奈川県平均よりもやや高い状況です。
- 数学A・数学Bにおいても、平均正答率は全国や神奈川県平均よりもやや高い状況です。
- 国語・数学ともに、主な特徴や課題については、全国の分析結果とほぼ同様の傾向を示しています。

#### 教科別の特徴

- 国語では、「漢字の読みや目的に応じて資料を効果的に活用して話す」また、「目的や意図に応じて資料を集め、自分の考えをまとめる」ことについては、相当数の生徒ができています。
- 数学では、「ある数量を正の数と負の数で表すことの意味の理解」、「平行移動した図形をかく」また、「円錐が回転体としてどのように構成されているかの理解」については、相当数の生徒ができています。
- 国語では、「事象や行為等を表す語句についての理解」また、全国平均よりは上回っているものの「相手にわかりやすいように語句を選択して話す」については正答率が低い状況にあります。
- 数学では、「扇の弧の長さをもとめること」、「比例定数の意味の理解」また、全国平均よりは上回っているものの「数学的な表現を用いて説明すること」、「事象や式の対応を捉えてその理由を説明すること」については正答率が低い状況です。

### 2 質問紙調査からわかる本校生徒の特徴（次項参照）

- いじめ防止に向けての理解や人の役に立ちたいと思う生徒の割合は全国に比べて高く、規範意識や他者への貢献意識が高い一方、地域・社会への改善等については意識が低いことがうかがえます。
- 学校の授業以外での勉強時間（塾等を含む）については、全国と比較すると長時間勉強している生徒が多くいる一方、家庭で計画的に学習ができていない生徒が半数もいることがわかります。家庭での学習の習慣化が望まれるところです。
- メールやインターネットをはじめテレビやDVDを視聴する時間が全国と比べて極めて長く、1日当たり3時間以上視聴している生徒が38%程度います。また、携帯電話やスマートフォンの保有率についても全国と比較して高い状況です。

### 3 今後の改善点やお願い

- 学校では今後も、学習活動の見通しを明らかにするとともに学習活動のゴールを明確に描き、さらに質の高い授業を創り出してまいります。また、単なる知識や技能の定着にとどまることなく、生徒たちの「もっとやってみよう」「もっと知りたい」といった好奇心や探究心を触発させ、次の新たな学びに繋がる授業の構築を目指してまいります。
- 学級活動等の中で自他共に大切にする人権意識を高め、今後もいじめや差別・偏見を許さない生徒の育成を推進してまいります。
- ご家庭では引き続き、携帯電話やスマートフォンの使用時間について、家庭でのルールを決めて実行できるように励ましをお願いします。

参 考 (平成29年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査結果から抜粋)

